

電気・電子業界の新開発に寄与するキョーワハーツの のキーワード「薄く・細く・小さい・多機能」

株式会社 キョーワハーツ

(株)キョーワハーツは、先代社長坂本透氏が昭和26年(1951年)に金型設計・製作及び金属プレス加工を目的として東京都目黒区で合資会社共和電機興業所を創業したのに始まる。当初は日立製作所に電話機器係部品を納入、次いで昭和31年からソニーのトランジスタラジオの部品製作に関わる。昭和33年、増資を図り、株式会社に改組する。

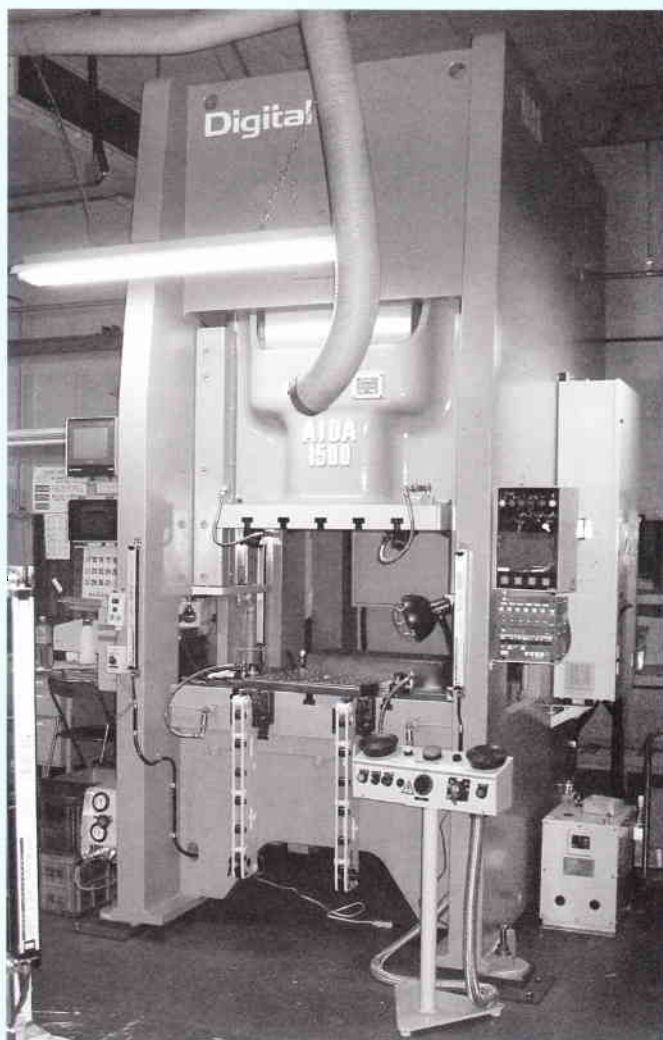
昭和41年、米国ミラー社から、スキー・ビンディングを受注し、年5万台を輸出した。昭和42年、サンエス電機(現・東光)と取引を開始し、荏原工場を設置、社員数50名を超える。昭和61年、技術の柱を従来の単発型から順送型に移行する。

平成3年、坂本悟氏が代表取締役社長に就任するとともに、翌4年に現社名のキョーワハーツに変更する。モノづくりには技術のみでなく心が伴うことをコンセプトとした。平成8年、環境問題と事業の発展性の見地から、本社工場を東京・目黒から現在地の横浜市港北区高田に移転した(敷地500m²、建屋400m²)。平成9年、製造業のためのネットワークサービスの会社「NCネットワーク」が設立され参加した(NC—数値制御)。平成11年、ISO9001の認証を取得、同15年、ISO9001:2000年版に移行、新組織体制を強化する。平成13年、経営革新支援法に基づく「経営革新計画」を作成し、都知事の認定を受けた。

平成13年、DIVO(デジタル複合プレス)を導入する。(サーボプレス機を連結した多連構造により単発の金型をセットして順送プレス同様の加工が可能)。翌年に量産第1号としてデジタルカメラ部品を受注した(40万個)。平成16年、高精度ワイヤー放電加工機を導入し、超精密金型の高精度化を図る。平成17年、ストレートサイドのプレス機を導入。一方、「顧客満足推進室」を新設する。顧客の技術相談にスピーディに対応、クレーム処理、新技術情報を調査・研究し社内に伝達するなどの業務を行う。

平成19年6月、AIDAダイレクトサーボフォーマーNS1-1500kN(D)を導入した。同社は500kNまでの小型プレスを中心に設備しているが、今後の加工能力の強化を図るために導入された。AIDAのプレス機導入第1号である。

同社の事業領域は、「顧客の開発スピードアップに貢献する『薄く・細く・小さい・多機能』部品の製作」で、主要部品は、携帯電話、パソコン、デジタルカメラ等の関連部品及び自動車用精密部品である。



▲デジタルサーボフォーマー NS1-1500D順送プレス機



株式会社 キョーワハーツ

www.kyowa-hearts.com/

代表取締役社長

坂本 悟氏



▲横浜工場正面前景

会社のあらまし

所在地 神奈川県横浜市港北区高田西1-5-1
TEL.045-593-6116 FAX.045-593-6121
設立 昭和26年5月 資本金 1,000万円 従業員 25名

プレス部品のキーワード

当社は、世界を制覇する日本のハイテク機器を支える精密プレス部品を、「薄く・細く・小さい・多機能」をキーワードに、電子・電気機器業界に提供している。

「薄く・細く・小さい」加工として、製品の小型化・精密化の流れに対応すべく、精密順送金型により積極的に取り組み、微細スリット加工、微細カーリング加工、複雑形状曲げ加工などを駆使した部品製作を得意とし、携帯電話、パソコン、コネクタ部品などのコンタクトや板バネなどを多数手がけている。

「多機能」は、一つの部品に複数の機能を持たせることにより、顧客の省スペース、コストメリットの要求に対応する。そのため、経験豊富な金型設計のアイデアや複合加工プレス機の活用によつて多機能な部品の製作を可能にし、安定した品質と超寿命金型で顧客のトータルコストの低減に貢献している。

サーボプレスによる加工能力アップ

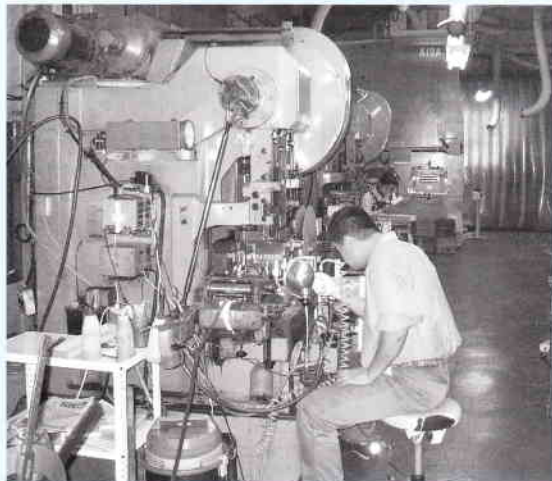
当社は、500kNまでの小型プレス機を主流に導入してきたが、昨今、対象商品の加工能力の向上が必要となり、1500kNクラスのサーボプレスとして、プレス機自体の精度・剛性を検討した結果、

本年6月にAIDAダイレクトサーボフォーマーNS1-1500kN(D)を導入した。

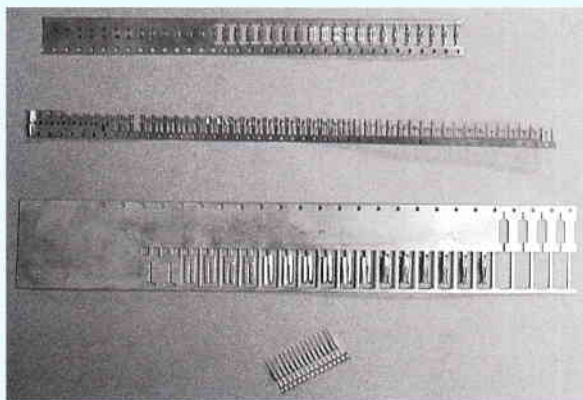
方向性としては、ワンショットの中で、いかに高付加価値の加工が可能かが課題であった。また、今後さらにより汎用性のある加工技術を習得する、ということが導入の動機づけとなっている。

NS1-Dは、個々の製品毎に必要な最小限のストローク長さとし、SPMをアップすることで、生産性を約30%アップする。

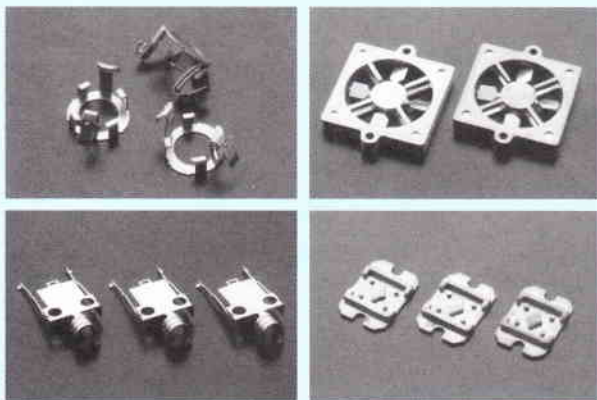
また、難加工材料に対しては、製品の成形条件に最適なスライドモーションを容易に選択し、データバンクに記憶できるため、高精度・高効率加工

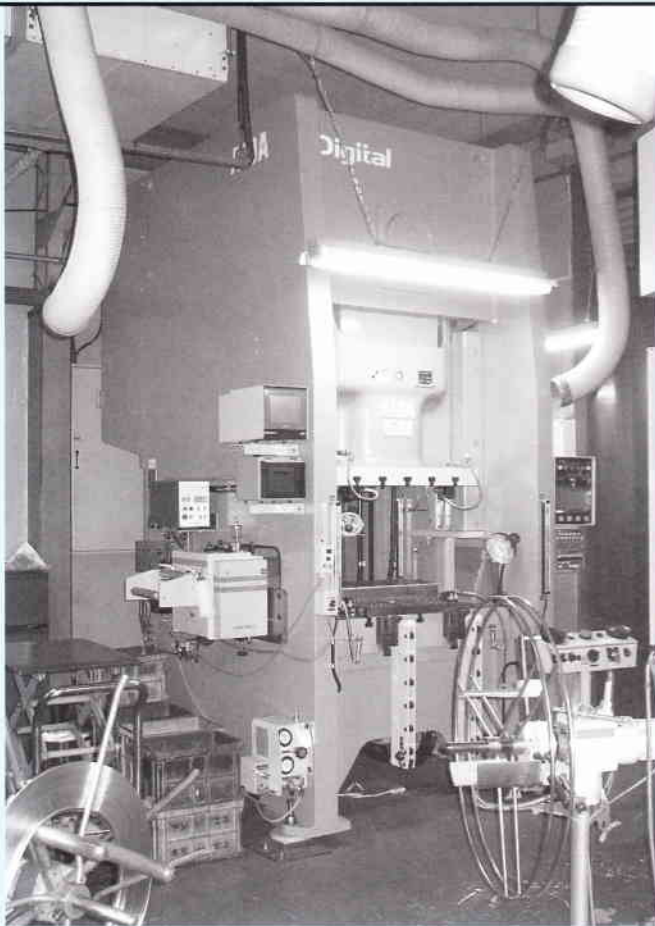


▲多機能微細部品プレス工場



▲製品加工例





▲NS1-1500D

工が実現する。

『人』の役に立つ『人』を育てる

当社は創業50数年来、金属加工技術を柱に、創造の蓄積による固有技術と周辺技術との複合及び新素材加工技術を確立し、オンリーワン企業を維持してきている。

それには、常に市場のニーズ・シーズに敏感な会社であり、顧客の開発スピードの更なる向上に貢献していくことを企業の使命とする。



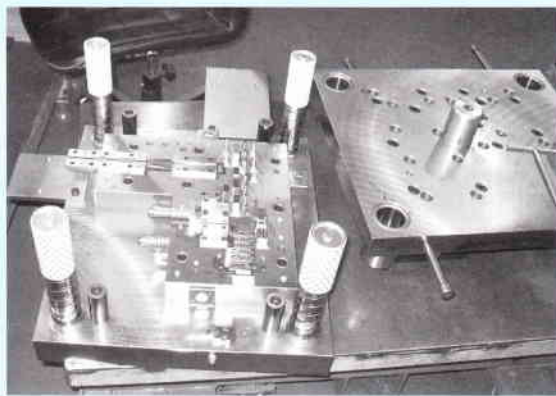
▲ISO 9001審査登録証

企業内では、仕事を通して社員の成長を図り、社員の幸せを実現する会社になることを目指す。その推進力となる人材教育こそトップの“一番の仕事”である。

人材育成の一例。品質管理の「QC検定」にチャレンジさせ、受験者9人全員が合格した。次回は全員受験へ。私は終業後に講師として勉強会を開いている。

さらに、後継者育成の一環として、数名の候補者に私が直接経営者教育を施す予定である。

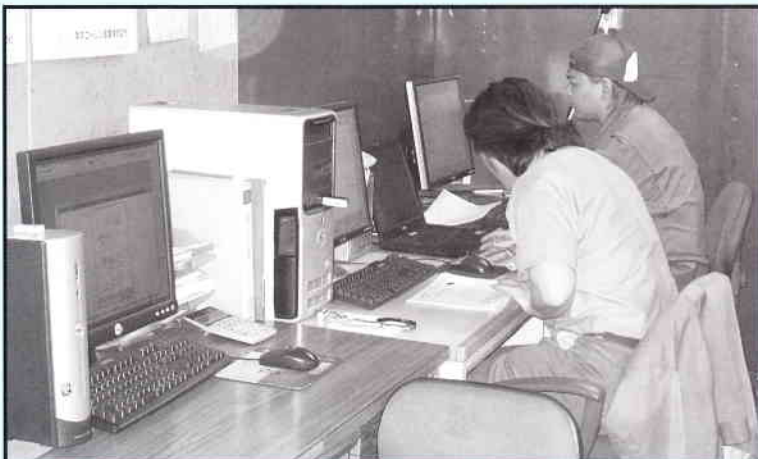
社長自身が講師である意識が、「人に役立つ人」の育成への必須条件となろう。



▲トライ中の順送金型



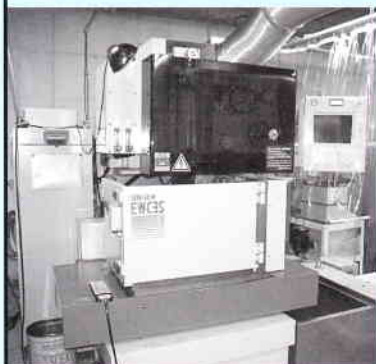
▲製品加工例



▲CAD/CAM設計室



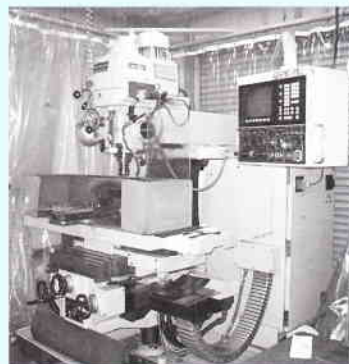
▲設計部門と直結したNCデータ制作現場



▲SEIBUワイヤーカット放電加工機



▲SEIBUワイヤーカット放電加工機



▲NCフライス盤



▲ニコン工具顕微鏡



▲ニコン工具顕微鏡



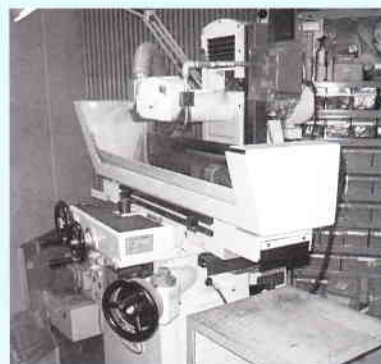
▲平面研削盤



▲バネ荷重測定器



▲出荷検品室



▲成形研削盤